

祝 辞

愛媛県俳句協会会長 相原左義長

第5回「えひめスポーツ俳句大賞」を心からおよろこび申し上げます。思いかえせば昭和20年8月15日、終戦と同時に食糧難の折から青少年の体力低下が、これからの日本を考えると、最大の問題であることが提起され、ただちに「国民体育大会」開催の気運が盛り上がり、翌21年第1回国民体育大会（国体）が近畿で開催され、各県持ち回りで今日におよんでいる。国民体育大会がはじまってから40年が経過した昭和60年、日本人のスポーツはオリンピックで金メダルを取得するまでに、体位も技術も世界にくらべ劣らぬものとなった。そこで次に考えられたのが国民体育大会にちなんで、「国民文化祭」であった。

「健全なる精神は健全なる身体に宿る」とは古来から言われている言葉である。

愛媛県は第5回国民文化祭を実施している。そしていま第5回「えひめスポーツ大賞」を実施した。

今日唯今では「スポーツと俳句」即ち「体育と文化」を県民に呼びかけている県は他にないと思う。そこで一案を述べておきたい。

第5回までは一般とジュニアの部に分けての募集であったが、ジュニアの部を「小学校」「中学校」「高等学校」に分けてはいいかなものかと考える次第である。正岡子規顕彰松山市小中高俳句大会あり、愛媛県総合文化祭に小中高（高等学校は平成18年から参加）がある。「小中高」ともに体育ほど時間を取ってはいないにしても「小中高」ともに俳句が教科書に乗っているのが現状である。関係箇所各方面のご検討をお願いしておきたい。

第5回「えひめスポーツ俳句大賞」の成果を顕彰すると共に今後への展望についての私の希望を述べて祝辞といたします。

平成19年3月20日